

がんばるバイクショップの

情報マガジン

ヤマハ ニュース

Yamaha News



特集●ライダー層獲得へのヒント

やっぱりバイクが好きだから・・・

ハローナイスショップ●YSP姫路

「店舗」「スタッフ」「ブランド」の相乗効果

YAMAHA NEWSインタビュー 21 ●パーク24株式会社

「地域社会への貢献」をサービスする

1996 No.399

11
NOV.

この頃、「スポーツ」する楽しさがわかってきた。ただバイクまかせに速さを求めるのではなく、冷静に状況を読み、自在にバイクを操る。その時の心地よい緊張感とそれを楽しむ余裕こそ、「スポーツ」の醍醐味なのだ。とTRXが教えてくれた。

拝見！となりのお店

HELLO NICE SHOP

ハローナイスショップ



2Fショールームは夜間もライトアップされ、広いウィンドウ越しに内部を見ることができる



サービス工場はリフトでショールームと連絡している。修理だけでなく、ドレスアップの相談に訪れるお客さまも多い

YSP姫路

兵庫県姫路市(高市義広店長)

「店舗」「スタッフ」「ブランド」「プロブランド」の相乗効果 入りやすいバイクショップを形づくる お客さまにとって魅力あるお店とは？

入りやすいショップ、親しまれるショップ
バイクショップにとって重要な課題の一つです
今回おじやました「YSP姫路」さんは
店舗の設計、スタッフの対応で
お客さまの心をつかみ
YSPブランドの持つ信用を得たことで
さらにその魅力を倍増させています

サービス工場で作業している合間にも、入れ替わり立ち替わりお客さまが訪れ、スタッフと談笑する。そうしている間に、また別のお客さまが修理車を持ち込んで来る。とても数カ月前にオープンしたばかりのショップとは思えない賑わいようだ。

「みんな学校や会社の帰りになると、必ず顔を出してくれるんです。私には、仕事のあとでこんなふうに関わりあうところが無いから羨ましいくらいですよ」と語るのは「YSP姫路」さんの高市義広店長。まだ27歳の青年店長だ。

YSP姫路さんは姫路市内初のYSPとして7月1日にオープン。以前はスクーターと自転車のショップだったが、昨年の12月に店舗を改築して、スポーツバイクのショップを始めた。



2F



1F

県道 姫路・大河内線 一 姫路市街

YSP姫路 兵庫県姫路市

自転車、スクーターのショップとしての創業は昭和46年。姫路駅から車で約10分の距離に立地する。周辺には大型スーパーがあり、商業地域として発達してきている。スポーツバイクの商圏は兵庫県西部をほぼカバーし、客層は10~20代の若者が中心



「みんなのお母さん」と親しまれ、お客さまたちのよき相談相手となっている恵子さん



隣接するPASと自転車のショップ。「PASに乗ってるお客さんは仕事の疲れやストレスがたまりにくい」と篤営社長は分析

「スポーツバイクを扱うようになって、確かに商圏は広がりました。サービス面でも、この辺りのヤマハユーザーすべてが頼りにしてくれているような気がしますよ」
YSPのブランドが持つ力と、それに負けないスタッフの努力がこのお店の人気の秘密ではないか。次々に訪れるお客さまが、何よりも明確にそれを証明している。

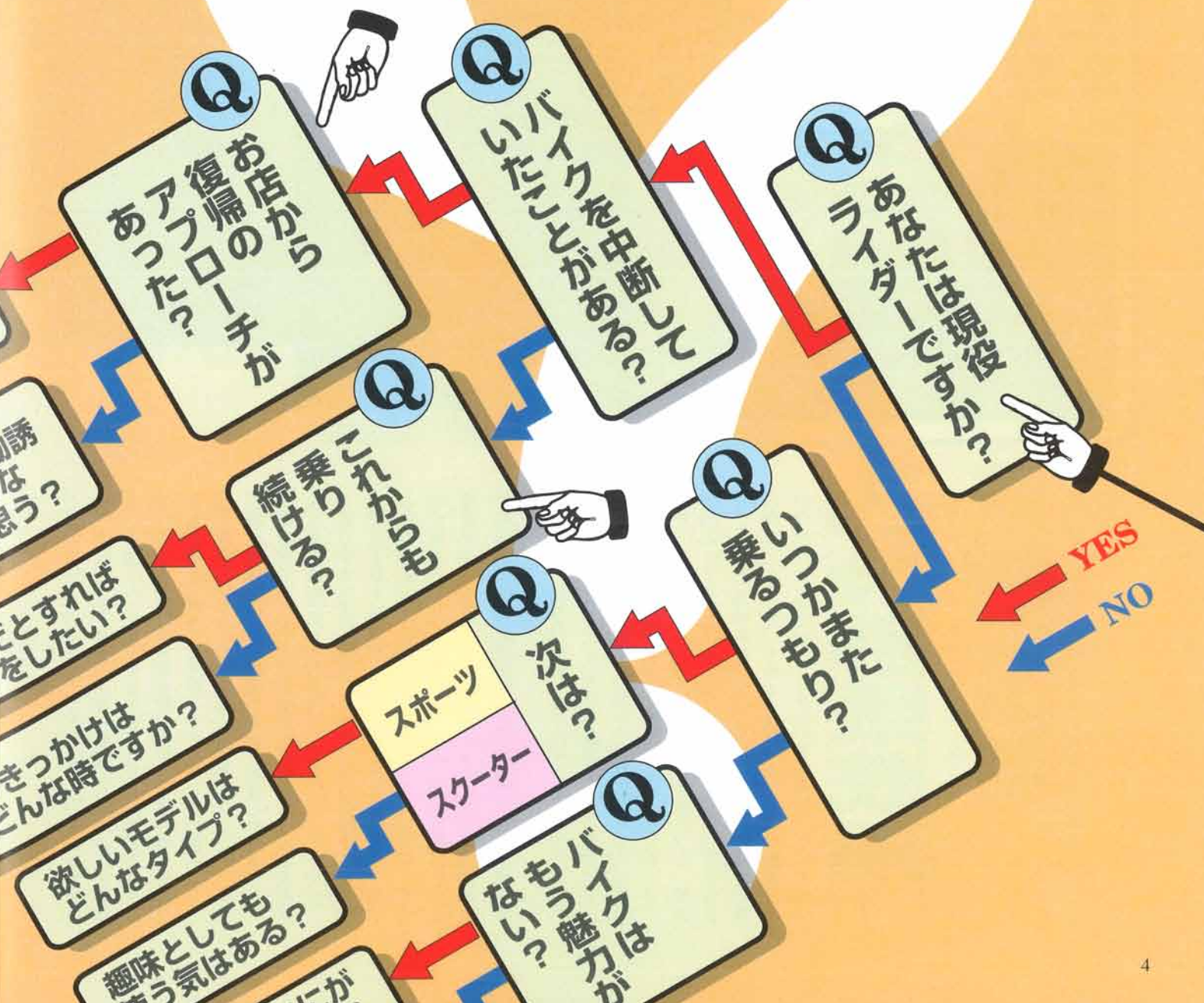
「入りやすい店にしたい」ということだった。
入りやすい店にするためには、店内の様子が外からよく見えなくてはいけない。そこで、2階のショールームはもちろん、1階の商談スペースとサービス工場にも大きなウィンドウを設け、スタッフが作業している様子が外から見えるようにした。ウィンドウの面積を広くすることは店内を明るい雰囲気にする効果もある。

しかし、店舗の構造だけで入りやすいお店になるわけではない。スタッフの対応も重要である。義広店長は丁寧かつ熱心な接客を心掛け、母親の恵子さんも若いお客さまたちに対してまるで息子のようにつながっている。
そして、7月に「YSP姫路」としてオープン。姫路市内にはヤマハのスポーツバイクを扱う有力店が少なかったため、地域のヤマハユーザーを取り込めるとの読みがあったからだ。それでも外観上の違いは「看板がついただけ」。なのに「YSP」の名前の持つ力にも改めて気づかされることになった。タウン誌の広告を見て20キロも離れたところからバイクを買いに来たお客さまもいたのだ。

やっぱりバイクが好きだから・・・

マジェスティの発売以来、再びバイクに乗り始める「リターン・ライダー」が増えてきました。「週末はバイク人」キャンペーンで募集した論文のなかにもリターン、あるいはリターンを希望する人たちの話が数多く含まれており、今後さらに注目すべき有望な需要層といえそうです。

そこで今回の特集は、さまざまな事情で一度バイクを下りながらライダーに復帰した、あるいは復帰したいと考えている人たちに直接取材。来店を誘い、リターンに結び付けるための糸口を探りました。



やっぱりバイクが好きだから



シヨップにはほとんど行かないけれど
やめてしまったわけではない
新車の購入も考えているんです

三富範明さん 千葉県我孫子市 29歳 会社員

「シヨップですか？ うーん、ほとんど行かなくなっちゃいましたね。最近は何年かからの連絡もないですし……」
と話す三富さんの愛車は、6年前に新車で購入した初期型のDT200WR。走行距離こそ約1万5000キロとあまり伸びてはいませんが、以前は「毎週のようにツーリングに出かけていた」という。

そんな三富さんのバイクライフに変化が生じたのは数年前。やはり結婚がきっかけだった。

「仕方のないことですが、結婚するとどうしても乗る機会が減ってしまいますよね。去年、長男が生まれてからは特にそうです。乗らなければ消耗パーツも減らないわけですから、シヨップに行く回数も必然的に少なくなりました。以前はロングツーリングの前に点検に出したり、年末にカレンダーをもらいに行ったりなんてこともありましたが、ここ数年はそれもありません。お店のほうも、もう（自分が）乗ってないと思ってるのかもしれないですね」

ただ、結婚後の三富さんがバイクと疎遠になつていくかと言えば、実際にはそうでもないらしい。独身時代と較べれば少なくなつてはいるものの、2か月に一度はお気に入りの日光周辺へとソコソコツーリングに出かけているのだから。

本当に気ままなツーリングを楽しんでいます。家族ですか？ たぶん「一日くらいは好きにさせてあげようか」と感じていないでしょうか。まあ今のところは気分よく送り出してくれてます（笑）
さて、そんな三富さんだが、家族に内緒で現在、二つの計画を練っている。一つは免許制度の改正を機会に、かねてから考えていた大型二輪免許の取得、そしてもう一つがDTWRに代わる新車の購入だ。

「もうそろそろ新しいのが欲しいな」と思っていたところに、立ち読みしていた雑誌でニューDTのスクープ記事を見かけたんです。正立サスに多目的デジタルメーターがついていて、たしか排気量が230ccでした。まだウチの大蔵大臣には相談してないんですけど、もし許してくれるのなら欲しいなあと思ってます」

ツーリング派の三富さんの愛読書は、月刊アウトライダー誌。加えてオフロード専門誌のガルルやバックオフも、立ち読みながら毎月のチェックを欠かしていません。また、走る機会が少なくなった一方で、反対に愛車の手入れやドレスアップにかける時間は以前より増えたとも言います。

「まわりにバイクに乗っている知り合いがいなくて、そもそも一人で走るのが好きな方ですから、ほぼ100%ソコです。休みの日に朝早く走り出して、

「まわりにバイクに乗っている知り合いがいなくて、そもそも一人で走るのが好きな方ですから、ほぼ100%ソコです。休みの日に朝早く走り出して、

「とにかくFZRに乗りたくて、それで免許を取りました。レーサーレプリカのシャープな雰囲気と、乗り手を元気にしてくれるエネルギーに満ちた感じが好きなんです」

熱烈なヤマハファンで、愛車の話になると目がキラキラしてくる宇野木さん。そんな彼女がバイクから離れていたのは、25〜28歳の約3年間だ。当時、職場で管理職になり、乗る時間がなくなったという物理的な理由だった。

しかし、いくら仕事が忙しかったからといって、その間、宇野木さんがバイクを忘れていたわけではない。FZRのいない寂しさを彼女はこんなふうに綴っている。

—— あなたのいない毎日、酷く憂鬱な、気の狂いそうな毎日。マンネリズムだけが、規則正しく時をうつ。何て心許ないんだろう——（週末バイクライフ懸賞論文応募作・宇野木秀世さん「週末はバイク人」より）

彼女の職場はファミリーレストランだった。当然、ライダーもお客さまとしてやって来る。ヘルメットを持った人には自然と目が止まり「どんなバイクに乗っているの？」と声をかけるのが、いつしか宇野木さんの習慣になっていた。だがやがて勤務に体調を崩し、退職。これを機会に院生として大学へ再入学した彼女は、FZRを購入し、再びライダーとなった。手放してしまった愛車に、やはり心残りがあったのだろうか。

「まず決めていたのは、絶対にYSPで買うということ。ヤマハの専門店だからメンテナンスにも信頼がおけるでしょ」と

話す宇野木さん

は、以前お付き合のあった

大型店には

少なからず不満

を持つていたのでそうだ。その点、現在通っているショップには全面的な信頼を寄せているという。先日もこんなことがあった。

「ちょっとしたトラブルで、急にバイクを修理に出すことになって……。ショップからは、「パーツの取り寄せに時間がかかるよ」と言われて私も覚悟していたんですが、結局はあちこちから調達して、1週間で直してくれました。さすがYSPだな、と感動しました」と、さらに信頼を厚くしている。

約30km離れたショップに行くのは、3か月に一度のペース。「オーナーもメカニックも気さくで、とってもいい方。家から遠くてたまにしか行けない私にも、必ず声をかけてくれるようなアットホームな雰囲気が入っています。それに何より、奥さんが素敵なお方なんです。女性なのにバイクのことをよく知っていて、お話していると、本当に好きなんだな、と伝わってくるんです」

そういう宇野木さんご自身も、来年の秋には奥さまになる予定。お相手も彼女の影響でリターンしたライダーだとか。「彼は、学生時代に私にFZRの魅力を教えてくれた人。こうして考えてくると、再びFZRに乗り始めたのも、彼と結婚するのも、なんだか運命のような気がするんですよ」

**3年ぶりにライダーへ復活！
信頼できるバイクショップと巡り会い
楽しいバイクライフを送っています**

宇野木秀世さん 東京都立川市 29歳 大学院生





久しぶりにバイクショップをまわったら お店の雰囲気は様変わり…… 迷ったあげく、店主さんの人柄で決めました

佐藤正明さん 東京都世田谷区 47歳 大学教員

前に、私は自分自
うになった1年

都会に居
を構えて約
20年、生活の
余裕を少し
感じられるよ

なシングルシリンダー、美しい横一文字
のハンドルをつけたスリムなモーターサ
イクルが一台。通るたびに立ち止まる。
ムスムスする五感——
たとえバイクに乗っていなくても、興
味だけは持ち続けていた証拠だろう。

身へのささやかなゆとり
の証として、250ccシングルのモータ
ーサイクルを手に入れた——(週末バイ
クライフ懸賞論文応募作・佐藤正明さん
「私とバイクと週末と」より)

※ ※

「私はね、16歳で免許を取ってから、バイ
クが自分のまわりになかったことがない
んですよ。高校時代にアルバイトをして
貯めたお金でYD-12を買って以来、ず
っとバイクに乗り続けてきたんです。と
ころが数年間の留学期間中に当時乗って
いたXT250が動かなくなってしまう
まして、これをきっかけに私のバイク熱
も少し冷めかけていたんですが……」

佐藤さんのケースも、ほとんどのリタ
イアライダーと同じように、バイクに対
する興味を失って走ることをやめてしま
ったわけではない。長い人生の中で幾度
か訪れる生活環境の変化。たとえば結婚
や出産、転職、転居といった生活の「質」
そのものが変わるときには、趣味の道具
であるバイクがはじき出されてしまうこ
ともある。それが佐藤さんの場合は留学
だった。

佐藤さんの論文には、バイクから遠ざ
かっていた時期を回想した、こんなくだ
りがある。

——家の近くの散歩道、神田川沿いの小
道に、クロームメッキのフェンダー、重厚

「久しぶりにバイク屋さんをハシゴして
みて、いろんなことを感じましたね。私
らの若いころにはなかったようなきれいな
店がたくさんできていましたし、そんな
店には私よりも二まわりくらい若い店
主さんがいました。反面、昔気質の小さ
な店も残っていましたけど。個人的に
はきれいな店には入りたくなくて小さな店
で買いましたけど、むしろ店主さんの人
柄というか、接客の雰囲気で購入店を決
めた感じですよ」

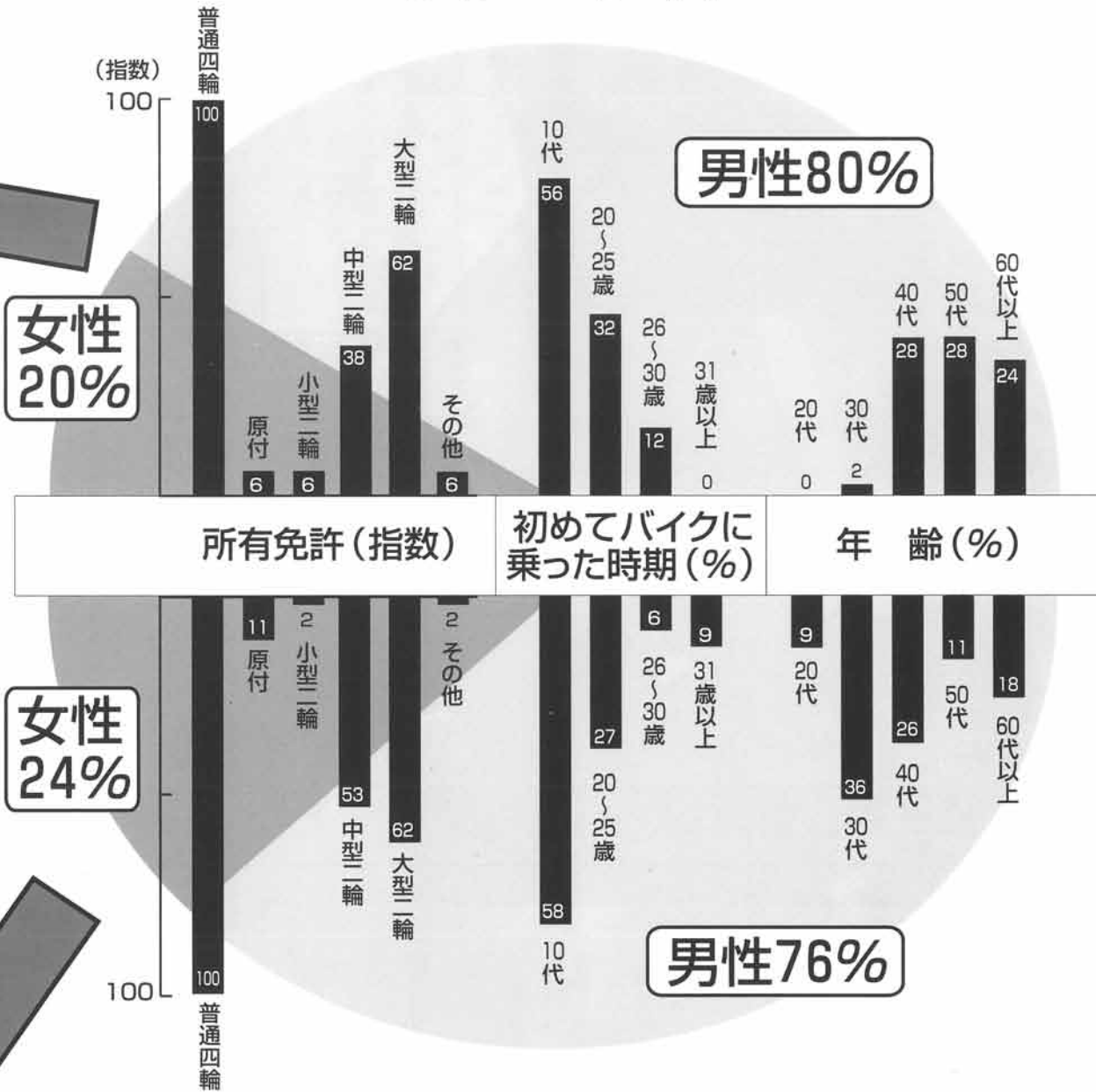
こうしてバイクライフを再開した佐藤
さんは、若かりし日に通いつめた葉山や
逗子、さらには箱根や富士山周辺へと、
月に一度の割合で足を運んでいる。ま
た、天気の良い日には勤務先の大学にバ
イクで颯爽と現われて、教え子たちの注
目を集めたりもしているそうだ。

「ただ私の場合、走ることそのものより
も、バイクという機械が好きなんです。ね。
クルマの車検も自分でやってしまうくら
いですから。」

そんなわけで、ほとんどの週末は家で
バイクをイジってます。それが私にとっ
ては一番、気持ち安らぐ時間ですなん
ですよ」

※「指数」は、各項目のうち最多の要素を100として計算した比較値

リターン者



リターン予備者

10年前の顧客名簿も宝の山に変わる！

今回、ヤマハニュースでは「一度バイクをやめながらリターンした人たち」(リターン者)および「以前バイクに乗っていたが、現在は乗っていない人たち」(リターン予備者)を対象に、独自のアンケート調査を行なったところ、まずリターン予備者のほぼ全員が「機会があればバイクに戻りたい」と回答。非常に有望な潜在需要層であることを、あらためて裏付けた。

しかし、実際のリターン者は半数が「10年以上のバイク中断期」を経ているため、お店はその人の存在をすっかり忘れていたり、顧客名簿から抹消してしまっている場合が多いようだ。ということは、古い顧客名簿もしっかりメンテナンスして見直すことで、宝の山が見つかるかもしれないわけだ。

ただ、ブランドが1年以内、あるいは2~3年という人を含めて「再びバイクに乗り始めた理由」で「バイクショップからの誘い」を上げた人がゼロというのは、魅力的なアプローチがなかったからか、アプローチそのものがなかったからなのか。「転居」などによる場合が多いとはいえ、せっかくなリターン者の大半を他店に譲ってしまったとは、じつにもったいない話である。

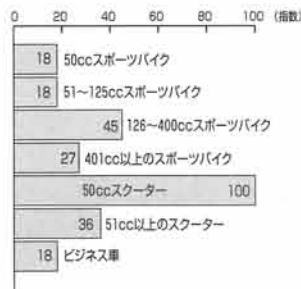
お店がもう少し長い目でアプローチしていけば、元の店にリターンする人がもっと増えてくるのではないだろうか。

データで見る「リターンライダー」像

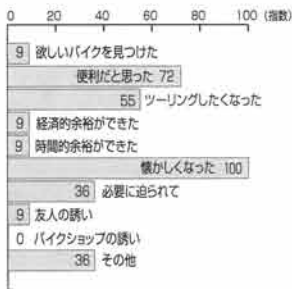
やっぱりバイクが好きだから

※「指数」は、各項目のうち最多の要素を100として計算した比較値

現在の所有バイク (複数回答/指数)



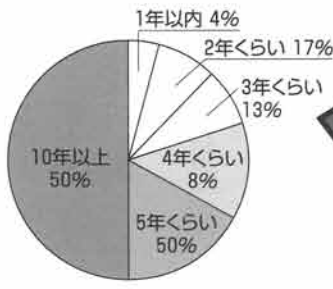
再びバイクに乗った理由 (複数回答/指数)



中断した理由 (複数回答/指数)



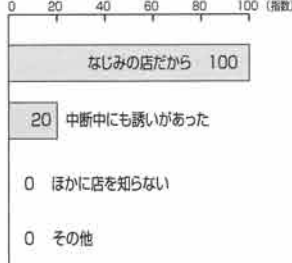
バイクを中断していた期間 (%)



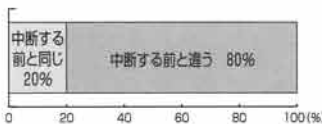
「違う店」を選んだ理由 (複数回答/指数)



「同じ店」を選んだ理由 (複数回答/指数)



現在付き合っているバイクショップ (%)



実際の使い方 (複数回答/指数)



ツーリングや展示・試乗会の案内を根気よく継続する

では、どんなアプローチをすればいいのか。「転居」されたお客さまは除外するとしても、バイクから離れた理由を見ると、もっとも多いのは「四輪に乗り替えた」りして「バイクに乗る時間がない」というパターン。その後も、「経済的余裕、時間的な余裕がない」「気に入ったバイクが見つからない」「きっかけがない」などの理由でリターンするに至らない人が多い。

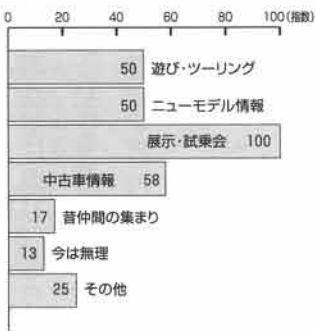
逆に言えば、そういった障害を取り除かれると、一度バイクのよさを知っている人だけに「懐かしくなった」「便利だ」「ツーリングをしたくなった」と、再びバイクに戻ってくるわけだ。

もちろん、経済的あるいは時間的余裕などお店の努力では解決できない問題もあるけれど、「10年」ものプランクを考えれば、それを2年でも3年でも早められるよう根気よく取り組みたい。肝心なのは、いざリターンしようという時「もう忘れられていそうで顔を出しにくい」なんて思われないう、しっかりつなぎとめておくことである。

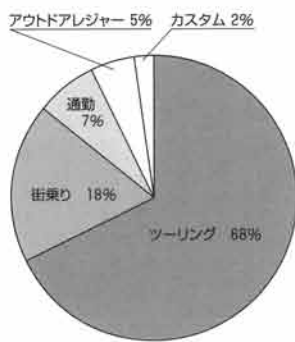
とあって、せっかくアプローチするのに「挨拶程度のDMではもったいない」「クルマで十分用が足りている」という人を「やっぱりバイクは楽しそうだな」と思わせるためには、「再びバイクに乗ったら一番したい」と考えている「ツーリング」や「街乗り」に出かけたくなる情報を提供したい。

それには、やはり定番ながら「展示・試乗会」「中古車」「ニューモデル」「ツーリングなど遊びのイベント」で来店を誘う、基本的な作戦が効果的なようだ。実際、引越して連絡がつかない人をリストから除いたとしても、リターン見込客は相当な件数になるはず。無理な企画でいくより、長続きする地道な方法を選ぶべきだろう。

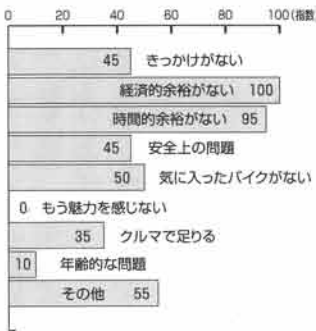
バイクショップからどんな誘いがあればいいか (複数回答/指数)



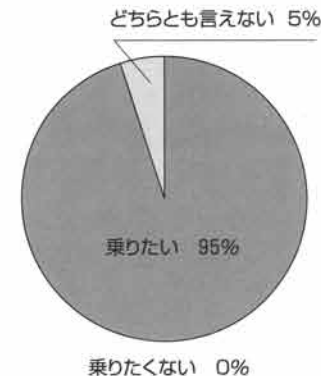
再びバイクに乗るとき、一番何がしたいか (%)



バイクをやめている理由 (複数回答/指数)



またバイクに乗りたいか (%)



※「指数」は、各項目のうち最多の要素を100として計算した比較値

地域社会への 貢献こそ私たちが 目指すサービス

YAHABA
NEWS
INTERVIEW

Vol.21

パーク24株式会社



TALK

中込 英隆さん
[取締役 営業本部長]

パーク24株式会社（東京都品川区）
1985年設立。（前身の株式会社西川商会
の設立は1971年）駐車場機器の開発、
病院の駐車場管理の受託を経て、平成3
年より無人管理の時間貸し駐車場
「Times24」を展開。20分100円、1時間
300円という値段でも話題になった。

今日、日本の自動車所有率は、じつに2人に1台の割合だといふ。しかし、都市部の道路は極限状態に陥り、さらに状況を悪化させていることも事実。その主な要因には迷惑駐車、違法駐車が挙げられるが、それを解決するための一筋の光となっているのが時間貸し駐車場の出現だ。「Times(タイムス)24」の看板で知られるパーク24(株)は、このシステムの草分けであり、「駐車場運営はサービス業」と位置つけた新たな姿勢で急成長を遂げている。

都市部における駐車場の問題は、かなり深刻な社会問題として取りあげられてから久しいですが……。

現在、6大都市の瞬間違法駐車車の数は、日中の多い時間帯で300万台とされています。違法駐車が交通の妨げになることを誰もが分かっているが、一向に無くならない。そこには、車を走らせることばかりにとらわれて、「停めるのはいいで

もいい」とするモラルの問題があります。でも、それならモラルさえ向上すればいいのかもしれない、根本的に受け皿となる駐車場があまりにも少なすぎる。しかも都市部の駐車料金が非常に高いなど、問題は根深いですね。

そういった状況の中で、20分100円という御社の料金システムは画期的でした。

「いつでも」「どこでも」「どなたでも」というのが基本的な考え方なんです。それには当然、低料金が不可欠な要素ですね。それに、100円という単

位で区切ることで、ほんの少しの時間だけ駐車したいという方へも対応できる。また、うちの駐車場はたった1台分のスペースしかなくとも、立派な駐車場として機能しま

す。例えば、歩いて10分もかかるような場所に大きな駐車場があ

ったとしても、なかなか利用していただけませんよね。駐車場はお客さまにご利用していただくなくては意味がありません。まず多くのお客さまに便利だと感じていただき、ご利用していただくための「サービス」が必要だったわけですね。

御社のようなシステムを採用した時間貸し駐車場が、かなりの勢いで増え続けていますが……。

大手企業の参入も相次いでいます。これまでは、とにかく量を提供することが先決でしたが、これからは質も問われてくるでしょう。

質というのは、さらなる低料金化という意味ですか？

低料金というのは、お客さまに対して最もストレートなサービスの一つです。でも、もっと広い意味で「駐車場運営はサービス業である」と捉えれば、アイデア次第で様々な展開ができるんですよ。例えば、どのようなサービスでしょう

うか？

タイムス24は、数台しか駐車できない小規模な駐車場がほとんどですが、逆にどこにあるのかを把握しづらい部分もあ





◀東京・大田区の池上Times第5駐車場の地下には防火水槽が設置されている。この地はもともと防火水槽などの施設が少なかったということもあり、消防署や地域住民から大いに感謝された



▶会員割引や利用回数割引ならまだしも、東京・六本木Times第4駐車場では清算時にSDカードや免許証のゴールドカードを提示すると料金が割り引かれる「高売度外視」のサービスが行なわれている



最近営業を始めた東京・大田区のタイムズ24では、駐車場のアスファルトの下

「サテライト機能パーキング」では、駐車場が洗車ができたり、お金がおろせたり、また託児所があったりと、単に車を停めるだけでなく、目的を持ったスペースへと、新しい可能性を追求しています。

現在、計画中の「サテライト機能パーキング」では、駐車場が洗車ができたり、お金がおろせたり、また託児所があったりと、単に車を停めるだけでなく、目的を持ったスペースへと、新しい可能性を追求しています。

が、SDカードや免許証のゴールドカードを見せれば、料金が割引になるというサービスも行なっています。

ります。小社では、自分たちで町ごとの駐車場マップを制作して、いくつもの警察署に置いてあります。駐車違反者への案内に利用される場合もあるそうです。また、一部ですが、SDカードや免許証のゴールドカードを見せれば、料金が割引になるというサービスも行なっています。

地域の方からはどのような反響がありますか？

おかげさまで、大変好意的な反響をいただいております。まれに高級住宅街などでは、「不特定多数の人が利用する時間貸し駐車場」ということで敬遠されることもありますが、そういったケースでは出店を取りやめています。駐車場はご利用される地域住民の方のものですからね。もちろん、それ以前に出店計画が決まった時点で、地域の一軒一軒に欠かさずご挨拶に回っています。

さて、現在ウチの駐車場の多くは、地主さんから土地をお借りして運営していますが、これからは自社所有地の駐車場をもっと増やしていきたいと考えています。じつは、時間貸しとはいえリピーターが多いので、そういったお客さまに自社所有の土地で半永久的に駐車場を提供し、安心してご利用いただきたいんです。流行だからとか、空いている土地があるからとか、そういう理由で一時的な駐車場を作ったのでは、お客さまに対して申し訳ないと思うのです。

駐車場運営はサービス業。そして、私たちが目指すサービスとは、都市と駐車場のあり方を追求し、その答えを人々に提供すること——それはまさしく社会への貢献だと考えています。

YSPバージョンアップ作戦 旅行プレゼント当選者決定!

YSPメンバーズクラブでは、今年、ネットワークのさらなる活性化をはかり、と、3つのプロモーションプランからなる「YSP'96バージョンアップ大作戦」を展開してきました。

そのひとつが、「YSPグアム旅行キャンペーン」。4月1日から8月31日までの期間中、全国のYSPで125cc以上の新車を購入されたお客さまのなかから、抽選で40名の方にグアム旅行をプレゼントし

ようというものです。そして、この度幸運な当選者40名が、次のとおり決定しました。おめでとうございます。

グアム旅行当選者のみなさん (敬称略)

<北海道> 竹内啓泰 萩原直子 石田祐二 佐々木博美 平崎俊和 山口陽右	<群馬> 大竹誠 <千葉> 中村亮 <茨城> 北條武志 <福島> 田中昇 <長野> 花立紀明	<東京> 中野田尚彦 大神田靖祐 米山毅 <神奈川> 平島光宏 尾形一哉 小林隼一 <静岡> 土井弘樹 鈴木良昌 杉浦繁司	栗島栄一 野嶋洋孝 大村弘司 安川修司 <愛知> 黒岩信幸 湯淺功一 林健太郎 森俊二郎 滝本一明 <大阪> 新克継	池田龍己 中村直久 <兵庫> 太田潤 小牧明 <和歌山> 喜多慎二 <香川> 永木次郎 <山口> 三谷陽
--	---	--	---	--

FROM SERVICE

各地から全国大会へ名乗り続々! 『第7回ヤマハ整備士コンテスト』



地区大会はそれぞれ多くの参加者を得て盛り上がった

お店のサービスマンが一堂に会して腕を競いあう「ヤマハ整備士コンテスト」は、全国大会に向けて地区大会が佳境を迎えているところ。すでに多くの代表者が名乗りを挙げており、今回もレベルの高い争いが期待されます。日頃培った技術と知識を、「精一杯」披露ください。



整備の行き届いた愛車で、生れ故郷のテストコースを快走



こちらはRZVオーナーズクラブ。中には「4台所有している」というクラブ員も

『ZR』でますます加速する'97春商戦 『ヤマハスクーター大感謝祭』をご活用ください

スポーツバイクに先駆けて、いよいよ動き出したスクーターの'97春商戦。ヤマハでは、全国統一のキャンペーン「ヤマハスクーター大感謝祭」を展開してみなさんのご商売をバックアップします。



購入プレミアム(O.P.スノーボータージャケット)

まず、アプリオに続いて登場する「シヨグザ」に対しては、今どきの若者に人気の「OP(オーシャン・パシフィック)製

EVENT TOPICS

赤トンボ舞うテストコースで 『第3回ヤマハクラブミーティング』開催

ヤマハモーターサイクルの愛好者クラブが、愛車のジャンルや製造年代を越えて親睦を図る秋の恒例イベント、「ヤマハクラブミーティング」(主催:ヤマハクラブミーティング実行委員会)の第3回大会が、今年も9月29日、赤トンボの飛びかうヤマハ袋井テストコース(静岡県袋井市)で開かれました。

当日は合計16のクラブから、約350名のクラブ員が参加。ヤマハモーターサイクルの第一号車Y A-1はもちろん、DT11、X S-1などの名車や旧車に加え、現代を代表するXJR1200やTRX850など、新旧さまざまなモデルがテストコースの駐車場を埋めつくしました。

- [参加クラブ]
- YDSクラブ
 - FJオーナーズクラブ
 - THE MAX(V MAX)
 - 東京XSクラブ
 - DT1クラブ
 - XJR1200ハイパー空冷四組
 - XS1100オーナーズクラブ
 - ヤマハトリプルミーティング
 - RZVオーナーズクラブ
 - TFジェネシス
 - GTS1000オーナーズクラブ
 - テネレクラブ ジャパン
 - RDオーナーズクラブ
 - FZ750オーナーズクラブ
 - 10バルブス
 - マウントリーブス

スノーボータージャケットをプレゼントする、購入プレミアムセールを実施。12月から来年1月にかけて、マンガ雑誌などを中心に幅広く告知します。

店頭の商品やノボリがキャンペーン実施店の目印となりますので、告知効果を最大限に活用できるよう、店頭・店内のツール掲示をしっかりと行なっておきましょう。

人気アメリカンの開発秘話に興味津々! 「ドラッグスター ランチミーティング」開催

「週末はバイク人」キャンペーンの一環として行われているランチミーティングは、バイクの開発スタッフとユーザーとのコミュニケーションの場として好評を得ています。10月13日にはアメリカンの人気モデル、ドラッグスターオーナー対象のミーティングを、快晴のヤマハリナー浜名湖で開催。会場には、愛知、岐阜、静岡の3県か



浜名湖にドラッグスターオーナーが大集合!!



ミーティングの後はハーバーに繰り出して、ボートクルージングを満喫

ら21台のドラッグスターが集まりました。オーナーの年齢も20代から50代と幅広く、その人気をうかがわれました。ミーティングの中では、開発スタッフの語るドラッグスター誕生のエピソードに参加者たちは熱心に耳を傾け、命名の由来やデザインに関する鋭い質問、意見も飛び出すなど、熱気に溢れる内容。参加者からは「今度はいつやるの?」「楽しかったです」といった反応が多く聞かれ、みんな満足した表情を浮かべていました。

新車、中古車3000台が勢ぞろい! 「ヤマハ大特選バイク市」開催

首都圏のY.S.P. YOU SHOP22店が一同に集結したバイク即売会「ヤマハ大特選バイク市」が、9月7〜8日の2日間に渡り、東京池袋のサンシャインシティで



多数のバイクを前に、会場のあちこちで熱のこもった商談が行なわれ、早くも次年度の開催を望む声も上がっていた

開かれました。関東では久々の大規模な展示即売会でしたが、初日のオープン時には会場前に多くのお客さまが詰めかけ、2日間の来場者は2500人にも上りました。会場には新車、中古車、逆輸入車合わせて3000台以上のバイクが展示。お目当てのバイクにまたがったり、スタッフの説明に耳を傾けるお客さまの姿が終始見受けられ、特に人気のTW200やマジエスティは、多くのお客さまの関心を集めていました。

そのほか、北海道フェリーチケットなどが当たる抽選会、用品の即売コーナー、カスタムパーツのブースも賑いを見せていました。おかげで、期間中の売上は新車104台、中古車80台を計上。大きな成果が得られた即売会となりました。

県立高校の文化祭に トライアルライダー野崎、萩原が登場!

9月7日、神奈川県立新磯高校の文化祭「繩河祭」において、「夢への挑戦!青春のトライアル」と称したオープニングイベントが行なわれ、ヤマハの国際A級トライアルライダー野崎純、女性トライアルの第一人者・萩原亜弥の2選手が招待されました。

的のひとつです。両選手が体育館とグラウンドでトライアルバイクでのデモ走行を披露すると、グラウンドセクションは夏休み生徒たちが手作りの材料はなんとサッカーボール



昨年より100名多い350名が参加した



野崎選手が校長先生と3人の先生を飛び越える!思わず女子生徒の間から悲鳴が!!

実は、野崎選手のお父さんが同校で世界史の先生を勤めているという縁で実現した今回のゲスト参加。同校は「3ナイ運動」でバイクを禁じるのではなく、安全運転教育を推進しているという方針をとっており、トライアルというスポーツを通して、高校生たちにバイクとの健全な付き合い方を伝えることが今回の大きな目

生徒や先生はそのハイレベルなテクニックに魅入られていました。また、生徒たちはゲスト2人の高校生活や練習での苦労などについての話に熱心に耳を傾け、イベントが終わった後でも両選手と一緒に記念撮影をするなど終始和やかで有意義なものとなりました。

十二月(霜月) ひとよみ

世の中は、はや冬じたく。お客さまの動きも鈍くなりがちな季節を迎えました。しかし、この時期をどう使うかが次の春商戦に向けて大事なポイントとなります。顧客名簿の整理や点検のご案内など、繁忙期にはとくに疎かになりがちだったことをしっかりとやっておきましょう。

- 11月12日(祝)：文化の日
- 11月3日(祝)：振替休日
- 11月4日(月)：立冬
- 11月7日(木)：立冬
- 11月8日(金)：一の酉
- 11月15日(金)：七五三
- 11月20日(水)：二の酉

- 11月23日(祝)：勤労感謝の日
- 12月21日(土)：冬至
- 12月23日(祝)：天皇誕生日
- 12月24日(火)：クリスマス・イブ
- 12月27日(金)：官庁御用納め
- 12月31日(火)：大晦日
- 11月12月の大安
- 11月1日(金)：7日(木)・12日(日)・18日(月)・24日(日)・30日(土)・12月6日(金)・11日(水)・17日(火)・23日(月)・29日(日)
- 「セール、イベントのキーワード例」
- 「愛車に感謝!メンテナンス教室」
- 「今シーズンの汚れ、疲れをリフレッシュしようと呼びかける」
- 「あたたか小物プレゼント」
- 「使い捨てカイロ、入浴剤、マフラーなど、冬のライダーを暖める小物をプレゼント」

ドッジボール、リンボーダンスに大ハッスル! 『96 YSP ツーリング グリーン那須』開催

今年で5回目を迎えるYSP北関東支部会恒例の「YSP ツーリング グリーン那須」



ドッジボール大会の優勝はYSP西川口チーム

が、9月15、16日、栃木県那須郡のリンボーダンス会場「くろばねスプリングス」で行なわれました。

今回は関東北部のYSP 8店から、ショップスタッフとお客さま190名が参加。秋晴れの空の下、ショップ単位でまとまって、那須までのツーリングを楽しみました。今年の目玉イベントはショップ対抗のドッジボール大会。久しぶりに持つボールの感触に戸惑いながらも、楽しそうにプレーし、賑やかな歓声を上げていました。日が暮れてからも、バーベキューやお馴染みリンボーダンス大会で大いに盛り上がったこのツーリング、ショップ相互の親睦も大いに深め合えたようです。

中国のモトクロスライダーが ヤマハのサポートで三重県選手権優勝!

ヤマハは中国体育協会の要請を受け、9月に中国ナショナルモトクロスチームのライダー3人を含む選手団を日本に招き、トレーニングを行いました。一行は、14、15日にスウェーランドSUGOOで全日本モトクロスレースを見学。その後、浜北トレイルランドで3日間の厳しいトレーニングを積んだ選手たちは、21、22日、三重県選手権モトクロスに参戦しました。決勝日は、台風の影響で強風の吹くあいにくのコンディションでしたが、YZR125を駆ってNA125ccクラスに出場出場した3人のうち、最年長25歳のスー・バン選手が見事優勝。スー・ウエンミン、アイコー・バイアル両選手も3位、5位に入る活躍を見せ、その実力とトレーニング



ゼッケン16番はスー・バン選手。スタートの遅れを挽回し、見事トップでチェッカーを受けた

の成果をアピールしました。また、今回のヤマハの協力に対し、中国体育協会から海外の一般企業としては初の感謝状が送られています。

接合バルブシート(BVS)技術を発表

既に新聞報道でもご存知のとおり、ヤマハではこのほど、4サイクルエンジンの吸気・排気各バルブの基本性能を向上させる「接合バルブシート(BVS)技術を開発しました。

一般に、4サイクルエンジンのバルブシートは、耐摩耗性に優れる鉄系の焼結合金製リングを、アルミ合金製シリンダーヘッドに圧入する構造となっています。これでは、バルブの開閉に伴うシリンダーヘッドの摩耗を防止し、同時に爆発圧力をシールする役割を果たしているわけです。ところが、このシール圧入方式では、①強度上の理由からポート間や、バルブシートリングの肉厚の高さを十分に確保しなければならぬこと、また②圧入接触表面の微小な凹凸がつくる空気層のためバルブシート回りの熱伝達特性が低いなど、

『第23回国際福祉機器展』開催 PAS技術を採用した車イス用ユニットを出展

9月18、20日、東京・有明の東京ビッグサイトで『第23回国際福祉機器展』が開かれました。この催しは福祉機器の情報を発信し、普及を促進する目的で開催されており、今年は過去最大の国内外410社が出展。展示品も2万点に上っています。ヤマハは今回、車イス用電動補助ユニット「JW II」を出展。これは電動ハイブリッド自転車PASに採用されているパワーアシストシステムを手動車イスに応用したもので、動力関係をすべて車輪に取ためたため、既存の手動車イスの車輪を交換するだけで、電動アシストによる移動が可能になる世界初の画期的新商品です。操作方法や感覚が通常の車イスと変わらずに体力的な負担が軽減されるので、

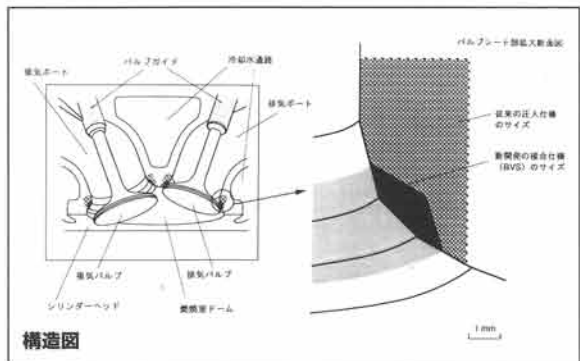
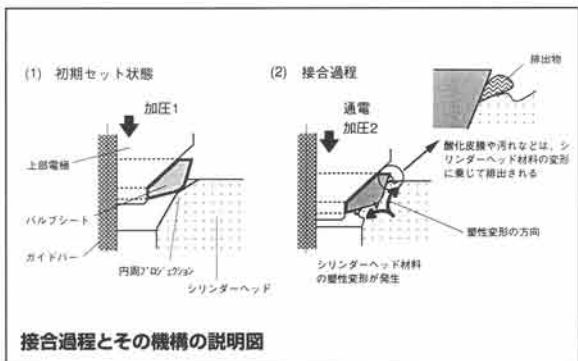


来場者の注目を集めた「JW-II」は10月1日より全国で新発売

ユーザーに違和感を感じさせることなく、行動範囲が大きく広がられると会場内でも好評を得ていました。

エンジン設計上様々な制約がありました。このほどヤマハが開発したBVS技術は、断面積を最小限としたバルブシート材(鉄系素材)をシリンダーヘッド(アルミ合金素材)に接合溶接する工程で、バルブシートに加圧通電を施し、これで見せるシリンダーヘッドの局部的な塑性変形を利用。金属間化合物の形成・成長を最小限にし、上記テーマの飛躍的解決を図るという製造技術です。必要な装置は、接合装置、電流制御システムなどで、接合に要する通電時間は1秒以下、またヘッド加工ライン中へのインライン処理ができるなど、高い生産性も特徴となっています。

これにより、①バルブ径設定の自由度拡大、②ポート形状の自由度拡大、③バルブ回りの熱伝達特性改善によるエンジン性能安定化や耐久性の向上などのメリットを生み出します。今後ヤマハでは、この技術をさらに進めさせながら、順次生産機種への搭載を検討する予定です。



性能安定化や耐久性の向上などのメリットを生み出します。今後ヤマハでは、この技術をさらに進めさせながら、順次生産機種への搭載を検討する予定です。

ティレル・ヤマハ、ランキング8位で終了 来季ヤマハはTWRアロウズとジョイント

今シーズンのF1GPが、10月13日の鈴鹿・日本GPで幕を閉じました。
それに先立つ第15戦ポルトガルGPで片山右京、ミカ・サロそらって完走を果たし



4年間にわたるティレルとのコンビで、ヤマハは通算23ポイントを獲得した

全日本モトクロス選手権終了 終盤の健闘光る鈴木はランキング6位

3月31日の多治見大会で幕を閉じた全日本モトクロス選手権は、10月6日の日本グランプリ・広島弘楽園大会で全11戦を終了しました。

そのなかで、YRTから参戦した鈴木健二は優勝1回、2位3回などを含めてトータル188ポイントを獲得。シーズン終盤の第9戦・四国大会と第10戦・SUGO



終盤で見せた鈴木健二の底力



第10戦・SUGO大会では大河原(右)が2位/1位の総合優勝、鈴木が3位/2位の総合2位とヤマハ勢が大健闘

たティレルヤマハは、鈴鹿スベシナルバージョンのエンジンと新型フロントサスペンションなどを投入し、最後の一発勝負をかけます。しかし、負い過ぎがたたったか、決勝は2台ともエンジントラブルでリタイヤに終わり、コンストラクターズポイント通算5位のランキング8位となりました。

来シーズン、ヤマハはTWRアロウズにエンジンと独占供給すると発表。ティレルとの協力関係も終了となりましたが、それによつてチャンピオンドライバーのデーモン・ヒルを迎えることとなり、タイヤも新規参入するブリヂストンに決定しています。

そうしたなか、まったく新しい体制で臨むヤマハにとって、'97年開幕戦は記念すべき100戦目。ナンバー1セッケンを身に付けたヤマハF1が、まさに注目の的となりそうである。

○大会ではそれぞれ総合優勝、総合2位と健闘を見せてランキング5位につけましたが、最終戦で高木崇雅(ホンダ)に逆転されてわずか4ポイント差で6位となりました。

世界GP最終戦でカピロッシが有終の美 ノリックはランキング5位を獲得

10月20日、'96ロードレース世界選手権の最終戦、オーストラリアGPでカピロッシが初優勝。トータル98ポイントでランキング10位に入りました。

また第3戦 日本GPで初優勝を成し遂げた阿部典史は、シーズン終盤で3位表彰台を3回獲得。GP2年目の今年は飛躍的な成長を見せ、トータル148ポイント

'96ランキング			
全日本MX			
1位	カタセビッチ	カワサキ	314
2位	ティチナー	スズキ	303
3位	榎本正則	カワサキ	291
4位	鈴木健二	ヤマハ	188
5位	小池田猛	ヤマハ	123
6位	鈴木健二	ヤマハ	111
7位	光安鉄美	ヤマハ	91
8位	大河原功次	ヤマハ	69
WGP <500cc>			
1位	トゥーハン	ホンダ	309
2位	クリビレ	ホンダ	245
3位	カダローラ	ホンダ	268
4位	阿部典史	ヤマハ	148
5位	バイル	ヤマハ	110
6位	カピロッシ	ヤマハ	98
7位	ロバーツJr.	ヤマハ	69
WGP <250cc>			
1位	ピアッジ	アプリリア	274
2位	ウォルドマン	ホンダ	268
3位	ジャック	ホンダ	193
4位	原田哲也	ヤマハ	104

光安鉄美は4位を最高にトータル91ポイントを獲得してランキング12位。世界選手権に参戦していた大河原は、帰国復帰した第10戦で2位/1位の総合優勝と実力を見せつけます。続く最終戦も3位/5位の総合4位と健闘し、トータル69ポイントでランキング13位に食い込みました。

チームYZ&大磯ムスタングの小池田猛とチームYZ&藤沢RTの田島久もそれぞれ8位、10位に入りました。

なお、チャンピオンは7勝を挙げたJ・マタセビッチ(カワサキ)がトータル314ポイントで獲得しています。

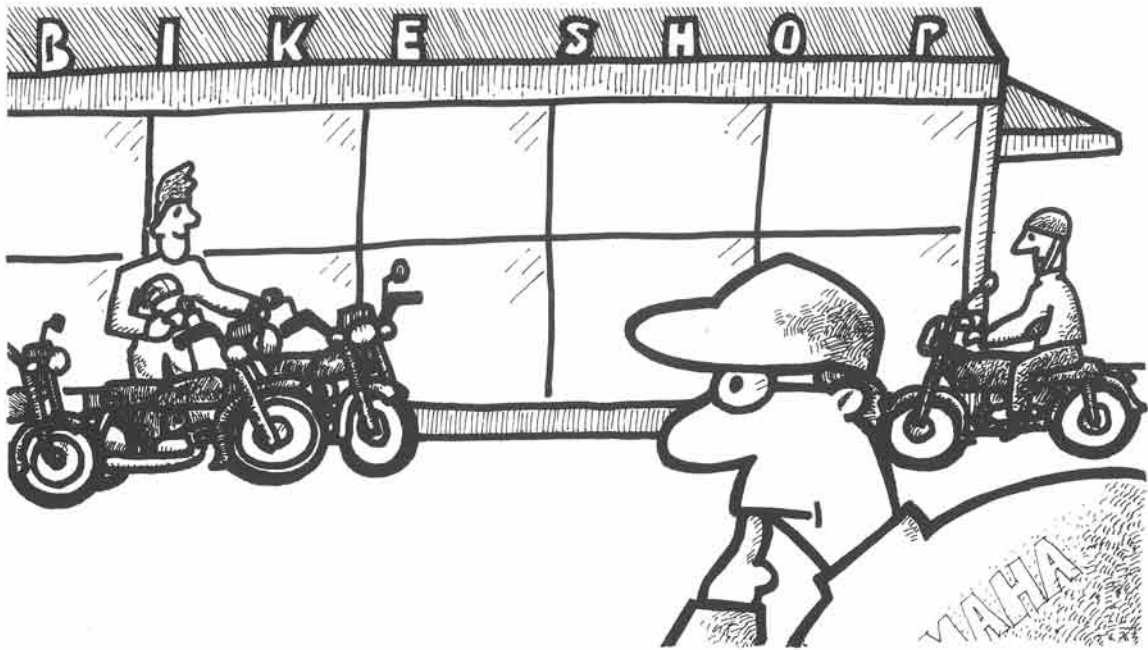
RACE RESULTS

【全日本RR】 第10戦/10英田(10月8日) <SB>			
①青木拓磨	ホンダ	①ラムゾン	ホンダ
②芳賀健行	ヤマハ	②高木崇雅	ホンダ
③武石伸也	カワサキ	③大河原功次	ヤマハ
<250>			
①加藤大治郎	ホンダ	①ラムゾン	ホンダ
②芳賀健輔	ヤマハ	②ティチナー	スズキ
③沼田憲保	スズキ	③榎本正則	カワサキ
④本間利彦	ヤマハ	④小池田猛	ヤマハ
⑤関口太郎	ヤマハ	⑤大河原功次	ヤマハ
【全日本TR】 第5戦/九州(9月22日)			
①酒井大作	ホンダ	①黒山健一	ベータ
②東雅雄	ホンダ	②藤波貴久	ホンダ
③中野真矢	ヤマハ	③成田匠	ベータ
④上江洲克次	ヤマハ	第8戦/(10月13日)	
【全日本MX】 第10戦/SUGO(8月15日) <250・ヒート1>			
①小田切一剛	ホンダ	①藤波貴久	ホンダ
②大河原功次	ヤマハ	②黒山健一	ベータ
③鈴木健二	ヤマハ	③成田匠	ベータ
④光安鉄美	ヤマハ	第13戦/カタルニア(9月15日)	
<250・ヒート2>			
①大河原功次	ヤマハ	①チェカ	ホンダ
②鈴木健二	ヤマハ	②トゥーハン	ホンダ
③ティチナー	スズキ	③クリビレ	ホンダ
④光安鉄美	ヤマハ	④阿部典史	ヤマハ
<250>			
①ピアッジ	アプリリア	①ビャック	ホンダ
②ジャック	ホンダ	②ウォルドマン	ホンダ
③ウォルドマン	ホンダ	③マッコイ	アプリリア
第11戦/広島(10月6日) <250・ヒート1>			
①青木治親	ホンダ	①真子智美	ホンダ
②徳留真紀	アプリリア	②マッコイ	アプリリア
③坂田和人	アプリリア	③坂田和人	アプリリア
第14戦/ブラジル(10月6日) <500>			
①トゥーハン	ホンダ	①カピロッシ	ヤマハ
②クリビレ	ホンダ	②岡田忠之	ホンダ
③阿部典史	ヤマハ	③チェカ	ホンダ
④バイル	ヤマハ	④バイル	ヤマハ
⑤ロバーツJr.	ヤマハ	⑤ロバーツJr.	ヤマハ
<250>			
①ピアッジ	アプリリア	①ピアッジ	アプリリア
②ウォルドマン	ホンダ	②ウォルドマン	ホンダ
③ジャック	ホンダ	③ジャック	ホンダ
④マッコイ	アプリリア	④マッコイ	アプリリア
第15戦/オーストラリア(10月20日) <500>			
①カピロッシ	ヤマハ	①カピロッシ	ヤマハ
②岡田忠之	ホンダ	②岡田忠之	ホンダ
③チェカ	ホンダ	③チェカ	ホンダ
④バイル	ヤマハ	④バイル	ヤマハ
⑤ロバーツJr.	ヤマハ	⑤ロバーツJr.	ヤマハ
<250>			
①ピアッジ	アプリリア	①ピアッジ	アプリリア
②ウォルドマン	ホンダ	②ウォルドマン	ホンダ
③ジャック	ホンダ	③ジャック	ホンダ
④マッコイ	アプリリア	④マッコイ	アプリリア
第16戦/鈴鹿(10月13日)			
①ヒル	ウィリアムズ	①ヒル	ウィリアムズ
②シューマッハ	フェラーリ	②シューマッハ	フェラーリ
③ハッキネン	マクラーレン	③ハッキネン	マクラーレン

トでランキング5位の成績を修めました。
このほかのヤマハ勢では、J・バイルが4位を最高にトータル110ポイントを挙げてランキング9位。500cc1年目ながら、終盤の第11戦ではポールポジションを獲得するなど速さをアピールしました。また、KロバーツJrは4位1回、5位2回など健闘しましたが、序盤2戦の欠場や転倒リタイアなどもあり、トータル69ポイントの13位でした。

今季急成長のノリック。第14戦・ブラジルGPでは3位表彰台にも満足しきれない表情





今月のテーマ

来店しないお客さま

10月に特集取材のために、ある販売店さんにお伺いしたときのこと。同店の店主さんが、こんな話をしていました。「ファッションバイカーって呼ばれてるお客さんのこと、どう思います？ 私なんかからすると、いまだに彼らをどう捉えたらいいのか分からないんですよ。あまりにも従来のお客さんと違うものですか……」

このお店、決してファッションバイカーの取り込みに苦戦しているわけではありません。長年にわたって地域密着の「販売を展開してきたことが功を奏して、Y・B・I一つとってもかなりの台数を販売しました。ところが、そうして取り込んだ若いお客さまと、今後どのように接していけばいいのか分からない、というわけなのです。

「最初のうちは、こちらにしても遠慮があるわけですよ。いきなりツーリングに誘っても来ないだろうし、だいたい点検なんかにもまったく反応がなかったですからね。きつと彼らは店との距離を置きたいんだらうな、と感じていたんです。ところが、たまに、パーツの注文なんかで店に来ると、積極的に質問はしてくるし、常連客なんかとも自然に会話をしている。こういう姿を見ていると、これまでのお客さんとそんなには変わらない

んじゃないかという気もしてくるんですけど……」

そこで「駄目でもともとツーリングに誘ってみた」ところ、返ってきたのは予想どおりの「別にいいです」「この場合の『いい』は、もちろん『行かない』の意」という返事。この時は、あまり強引に誘うのも逆効果と考え、「じゃあ走りたくなったら遊びに来てよ」と送り出したそうです。

押してもダメ、引いてもダメ。「どう捉えていいのか分からない」と話す店主さんの気持ちも分からなくなりました。しかし一方では、こんな意見もあります。

「彼らが走っていないというのは認識違い。純粹なツーリングとは言えないかもしれないけど、仲間同士で郊外の用品専門店まで部品を買いに行ったりしてるんだ。このあたりからだと言復で50キロはあるから、原付としては立派なツーリングの距離だね。そうやって私たちの見えないところでは走っているんだから、こっちが勝手にあきらめちゃって、売りっぱなしにしておくのはもったいないよ」みなさんは、50ccスポーツがズラリと並んだ大型用品店の駐輪場のぞいたことがありますか？ こんなところにも、大きなヒントが隠されているのかもしれない。

New Model [apow man]

ステンレス巻きマフラー採用で外観商品性アップ

ヤマハスクーター

『スーパージョグZR』発売

ヤングユーザーからの人気でスクーター市場の牽引カともなっているスポーツスクーター、『スーパージョグZR』が、外観仕様を変更して登場します。

《主な変更点》

- マフラーにはステンレス巻き処理を行い、またクロームメッキプロテクターを採用。外観商品性を向上させました。

ブルーイッシュ
ホワイトカクテル1



オレンジカクテル1



カラーリング

- コンペティションシルバー
- ブラック2
- オレンジカクテル1
- ブルーイッシュホワイトカクテル1(ホワイト)

12月1日発売

メーカー希望小売価格 169,000円

*北海道、沖縄および一部地域を除く。価格には保険料、税金(含む消費税)、届出に伴う諸費用は含まれません。

P字ロック・U字ロック収納可能リアキャリアを標準設定

ヤマハスクーター

『ジョグ アプリオ』(YJ50) 発売

初代モデル導入から早3年。軽快な走りとおしゃれな外観、カラーリングの良さ、利便性の良さなどで、世代を超えた根強い人気を集める『ジョグアプリオ』が、また装備充実を図って新登場します。

《主な変更点及びセールスポイント》

- 盗難防止用として装着率の高いP字ロック、U字ロックを固定収納できるリアキャリアを標準装備しました。
- 「アプリオ」の立体エンブレムを採用して外観商品性アップを図りました。

カラーリング

- ブルーイッシュブラックカクテル1(ダークグリーン)
- ダークパーブリッシュレッドカクテル3(レッド)
- ダークパーブリッシュブルーメタリック2(ブルー)
- ブラック2
- ソルトレイクシルバー

ソルトレイクシルバー



ブルーイッシュ
ブラックカクテル1



ダークパーブリッシュ
レッドカクテル3



通勤シーンをスマートに演出する『ビジネスバッグキャリア』

11月1日発売

メーカー希望小売価格 3,400円

[90793-51051]

【特徴】

- ブラック粉体塗装仕上げ
- ホルダーバンドつき
- ほとんどの現行50ccスクーターに適合

スクーターで通勤するビジネスマンのための便利グッズ。さまざまな大きさのバッグを、簡単・確実・スマートに固定する。



【サイクルロック

P LOK(ピーロック)】

10月1日発売

メーカー希望小売価格

3,900円

[90793-66389~66392]

【特徴】

- 剛性に優れたクロムモリブデン鋼を採用
- 700gボディ
- ファッションブルなブラック、シルバー、パープル、イエローの4色をラインナップ
- ダストカバー(鍵穴カバー)つき



ール「ランツァ」(DT230)

新登場

新作セル付き230エンジン採用、
8ビットマイコン制御の
トラクションコントロールシステム搭載!
スポーツレールの楽しさ再発見!

'97年1月10日 発売

メーカー希望小売価格
「ランツァ」435,000円

*北海道、沖縄および一部地域を除く。価格には保険料、税金(含む消費税)、登録に伴う諸費用は含まれません。

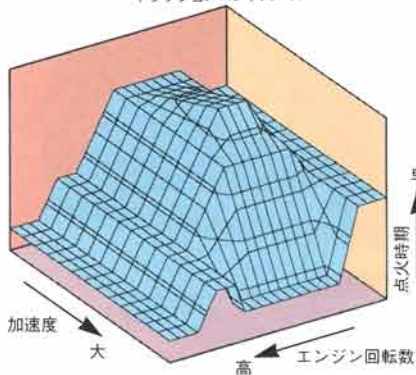
カラーリング

- パーブリッシュホワイトソリッド1 (ホワイト)
- ディープパーブリッシュブルーメタリックC(ブルー)



<トラクションコントロールシステム>

トラクションコントロール



林道など広いオフロードエリアで“操ることが楽しいスポーツレール”を具現化した「ランツァ」がいよいよ登場。扱い易いパワーと車体サイズ、素直なハンドリング等、オフロードに必要な要素を高次元で達成するために新作230エンジンを搭載。コンモデルを母体とした2サイクルオフロードモデルでは達成できなかった可能性を「ランツァ」は提案。「コン志向ではなく走りそのものを楽しみたい」といったニーズに応えます。

【主な特徴とセールスポイント】

● 新作セル付き水冷2サイクル224ccエンジン

ボア×ストローク66.8mm×64mm。現行DT200WRとの比較で見ると7mmロングストロークとなる新作エンジンを搭載しました。軽量高剛性鍛造ピストンをはじめ、シリンダー、クランク回り、燃焼室、ケースカバー、セルスターター回り、そして排気系まで主要性能パーツを新設計。扱いやすいパンチ力とパワー、コントロールしやすい粘りを達成しています。

● 車体にジャストフィットするコンパクト性

車体にジャストフィットするコンパクトなエンジンサイズも「ランツァ」の特徴です。小型エアクリナー、スラント配置でスリムな幅を実現したラジエターなどとの相乗効果で重量マスの集中を達成、軽快な操縦安定性を生み出しています。また、パワーウエイトレシオも3.54を実現しました。

● 8ビットマイコン制御トラクションコントロールシステム

リアタイヤのトラクション状況を点火時期制御にフィードバックするヤマハ独自の「トラクションコントロールシステム」を搭載しました。エンジン回転数と加速度(加速変位)を各センサーで拾い、その情報を8ビットマイコンで制御して点火時期をキメ細かく設定し、リアのトラクションを積極的に発生させるこのシステムは、ビギナーからベテランまで、誰もが体感できるニューフィーチャー。リアの滑りをコントロールするオフならではの

爽快感、その概念を一新するアイテムです。

● 新設計セミダブルクレードルフレーム

操れるサイズ、軽快なハンドリング、軽量フィーリング、パワーを支える強力な足回り、それらを高次元で具現化するために新作軽量セミダブルクレードルフレームを採用、コンパクトな車体レイアウトを生み出すポイントとなっています。

● 走行力とコンパクト性を両立させた前後サスペンション

フロントには41mmインナーチューブ採用で圧側減衰力調整機構付きの正立サスペンションを、リアには伸圧減衰力調整機能付きモノクロスサスペンションを採用しました。ダンピングフォース発生構造の徹底解析により優れたクッション性能を確保すると同時に、フロント260mm、リア250mmの必要最低限かつ最適クッションストロークを設定。コンパクトフレームとの相乗効果で、1G乗車時820mmのシート高(仕様諸元値は865mm)による良好な足着き性も実現しました。

● 充実のオフロード機能

11ℓフルエールタンク、「TT250R」と同仕様の多機能デジタルメーター、60W/55Wヘッドライト、アルミ製ラジエターガードなど、林道を快適に楽しく走るための充実の装備を施しました。

ランツァ主要諸元

● 型式/エンジン型式=4TP/4TP ● 全長×全幅×全高=2140mm×800mm×1200mm ● シート高=865mm ● 軸間距離=1410mm ● 最低地上高=300mm ● 乾燥重量/装備重量=114kg/130kg ● 舗装平坦路燃費=40km/ℓ(60km60/h) ● 原動機種類=水冷2サイクルクランク室リードバルブ ● 気筒数配列=単気筒 ● 総排気量=224cm³ ● 内径×行程=66.8×64.0mm ● 圧縮比=6.5:1 ● 最高出力=40PS/8500rpm ● 最大トルク=3.7kgf・m/7500rpm ● 始動方式=セル式 ● 潤滑方式=分離給油 ● オイルタンク容量=1.3ℓ ● キャブレター型式=TM30SS ● 点火方式=CDI ● バッテリー種類=G16B(MF) ● 1次減速比/2次減速比=2.571/3.437 ● クラッチ形式=湿式多板コイルスプリング ● 変速比=1速2.750、2速1.875、3速1.411、4速1.141、5速0.956、6速0.818 ● フレーム形式=セミダブルクレードル ● キャスター/トルール=27°00'/114mm ● タイヤサイズ(前/後)=3.00-21 51P/4.60-18 63P(前後チューブタイプ) ● ブレーキ形式(前/後)=油圧式シングルディスク/油圧式シングルディスク ● 懸架方式(前/後)=テレスコピック/スイングアーム ● ヘッドライト/ハロゲンバルブ12V60W/55W



エンジン関係とサスペンションの性能向上で熟成
ヤマハトリアル

『TY250Z』発売



コンペ専用モデルとして、エンスー
ジャストからの強い支持を集める『T
Y250Z』がマイナーチェンジ。スペ
ックを超えた新しい進化が、
ビギナーから国際A級選手
まで、クラスを超えた様々な
ニーズに応えます。

11月1日 発売

メーカー希望小売価格
750,000円

*北海道、沖縄および一部地域を除く。価格には保険料、税金(含む消費税)、は含まれません。

カラーリング

- パーブリッシュホホワイトソリッド1
ノインクブルー

《主な変更点及びセールスポイント》

- サイレンサーは、基本設計の見直しと変更で、全域にわたり10~15%ものパワーアップ(当社従来モデル比)を図るとともにレスポンスを向上。しかもサイレンサー本体で25%の軽量化、20%の小型化(いずれも当社従来モデル比)にも成功しました。マスの集中化による操縦安定性のアップ、転倒時のダメージ低減にも貢献するアイテムです。
- クラッチはプッシュロッドにスラストベアリングの追加を行ないフィーリングを向上させました。
- リアサスペンションのオイル通路にチェックバルブを追加しました。極低速域での減衰力特性を向上させ、(当社従来モデル比)ムービングやリアホッピング時のアクション作動への優れた応答性、ステアケース乗り越え後の良好なグリップ、ロックセクション連続作動時における優れたフットワークなどを実現しています。
- フロントブレーキのディスクローターには、ニュータイプ(孔なしタイプ)を採用し、ドライ時の更なる制動力アップを実現しました。



LANZAボルトオンパーツ



リアキャリア

12,800円 [90793-51053]

フラットな形状の荷台と8本のフックにより、軽量コンパクトなデザインながら優れた積載性を発揮します。

- カラー:シルバーアルマイト



フロントディスク&フォークカバー

7,800円 [90793-56032]

プロテクション性能はもちろんのこと、車体と一体化したデザインが魅力のディスク&フォークカバーです。(左右セット)

- カラー:パーブリッシュホホワイト



フレームガード(L)

3,800円 [90793-56034]

フットグリップを重視するライダーの必須アイテム。車体を傷から守ります。

- カラー:シルバーアルマイト



キックセット

12,800円 [4TP-W0795-00]

アドベンチャーランに欠かせない、万が一のお助けキット。



エンジンガード

10,800円 [90793-56031]

三次元曲面成型を施したアルミ合金製。



リアディスクカバー

1,500円 [90793-56033]

前輪からの強烈な跳ね石にも対応する強度を確保しました。

- カラー:パーブリッシュホホワイト



のんびりバイクで旅していると
人間は自由気ままな生きものだって
つくづく実感してしまう。



週末は、バイク人。

ついでに、明日も週末にしちゃおかなー。

YAMAHA

ヤマハ発動機株式会社

見る見られるいい道程

バイクCD-ROM

SUPERMIX

即席プレゼント実演中

『週末はバイク人』懸賞論文作品を先上げます

週末はバイク人

この広告は、現在発売中の二輪専門誌各誌に掲載中です

この間読んだ『週末はバイク人』懸賞論文の入選作品に、「上田逍遙（しょうよう）はバイクに限る」という話があった。「逍遙」の意味は、ぶらぶら散歩して回ること。ずいぶん難しい言葉を使うなあと思ってたんだけど、今ならなんとなく気持ちがわかる。

この週末、久しぶりにバイクであてもなく旅をした時、自由気ままに過ごす休日の心地よさをたっぷり味わうことができたのだ。その幸せな2日間の道程はすごく新鮮で、ツーリングとかバイクの旅とか散歩とか、ありきたりの言葉では表現しきれないと思った。逍遙。これだよ、きっと。

忙しい日常を切り離して、思いっきりのんびり走るバイクの旅。もう一日休みを伸ばしたくなるほど快適、そんな週末を過ごしてみませんか。

それが、今、『週末はバイク人』キャンペーンを通じて投げかけているヤマハのメッセージです。

せっかくの休日も予定や計画が目白押しでは、いくら若くても疲れてしまいます。ましてや妻子ある身となればなおさら……。お店でも「いってらっしゃい」と、ひと声かけてあげてはいかがでしょう？